

電子添文改訂のお知らせ

2026年10-11月

深在性真菌症治療剤

劇薬、処方箋医薬品^{注)}

ノクサフィル[®]錠100mg

(ポサコナゾール錠)

ノクサフィル[®]点滴静注300mg

(ポサコナゾール注射液)

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

このたび、標記製品の電子添文を以下のとおり改訂しましたのでお知らせいたします。

今後のご使用に際しましては最新の電子添文をご参照くださいますようお願い申し上げます。

弊社製品のご使用にあたって、副作用等臨床上好ましくない事象をご経験の際には、弊社MRまでご連絡くださいますようお願い申し上げます。

MSD 株式会社

《改訂概要》

改訂項目	改訂内容
2. 禁忌	通知*に基づき『アナモレリン塩酸塩』（を投与中の患者）を追記しました。
10.1 併用禁忌	通知*に基づき『アナモレリン塩酸塩』を追記しました。

* 令和8年10月8日付 厚生労働省医薬局医薬安全対策課長通知

- ・ 今回の改訂内容は医薬品安全対策情報（DSU）No.350（2026年11月）に掲載されます。
- ・ 改訂後の電子添文全文は、PMDAホームページ「医薬品に関する情報」（<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html>）及び弊社ホームページ（<https://www.msdconnect.jp/>）に掲載しております。
- ・ 添付文書閲覧アプリ「添文ナビ」を用いて、以下のGS1バーコードを読み取ることで、PMDAホームページ上の最新の電子添文等をご覧いただけます。

ノクサフィル錠 (MSD)



(01)14987185810545

ノクサフィル点滴静注 (MSD)



(01)14987185810552

《改訂内容》

改訂後	改訂前																														
2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 2.1 エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミン、メチルエルゴメトリン、エルゴメトリン、シンバスタチン、アトルバスタチン、ピモジド、キニジン硫酸塩水和物、ベネトクラクス〔慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫の用量漸増期〕、スボレキサント、ボルノレキサント水和物、ダリドレキサント塩酸塩、フィネレノン、エプレレノン、アゼルニジピン、オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン、マバカムテン、ロナファルニブ、パロパロテン、<u>アナモレリン塩酸塩</u>、<u>ルラシドン塩酸塩</u>、<u>プロナンセリン</u>、ボクロスポリン、トリアゾラム、リバーロキサパンを投与中の患者〔10.1 参照〕 2.2 略（変更なし）	2. 禁忌（次の患者には投与しないこと） 2.1 エルゴタミン酒石酸塩・無水カフェイン・イソプロピルアンチピリン、ジヒドロエルゴタミン、メチルエルゴメトリン、エルゴメトリン、シンバスタチン、アトルバスタチン、ピモジド、キニジン硫酸塩水和物、ベネトクラクス〔慢性リンパ性白血病（小リンパ球性リンパ腫を含む）、再発又は難治性のマントル細胞リンパ腫の用量漸増期〕、スボレキサント、ボルノレキサント水和物、ダリドレキサント塩酸塩、フィネレノン、エプレレノン、アゼルニジピン、オルメサルタン メドキシミル・アゼルニジピン、マバカムテン、ロナファルニブ、パロパロテン、<u>ルラシドン塩酸塩</u>、<u>プロナンセリン</u>、ボクロスポリン、トリアゾラム、リバーロキサパンを投与中の患者〔10.1 参照〕 2.2 略																														
10. 相互作用 略（変更なし） 10.1 併用禁忌（併用しないこと） <table><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr><tr><td>略（変更なし）</td><td>略（変更なし）</td><td>ポサコナゾールの併用により、CYP3A4が阻害され、これらの薬剤の血漿中濃度が上昇すると予測される。</td></tr><tr><td>パロパロテン（ソホノス） [2.1 参照]</td><td>略（変更なし）</td><td></td></tr><tr><td><u>アナモレリン塩酸塩（エドルミズ）</u> [2.1 参照]</td><td><u>アナモレリン塩酸塩の作用を増強させるおそれがある。</u></td><td></td></tr><tr><td>略（変更なし）</td><td>略（変更なし）</td><td>略（変更なし）</td></tr></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	略（変更なし）	略（変更なし）	ポサコナゾールの併用により、CYP3A4が阻害され、これらの薬剤の血漿中濃度が上昇すると予測される。	パロパロテン（ソホノス） [2.1 参照]	略（変更なし）		<u>アナモレリン塩酸塩（エドルミズ）</u> [2.1 参照]	<u>アナモレリン塩酸塩の作用を増強させるおそれがある。</u>		略（変更なし）	略（変更なし）	略（変更なし）	10. 相互作用 略 10.1 併用禁忌（併用しないこと） <table><tr><th>薬剤名等</th><th>臨床症状・措置方法</th><th>機序・危険因子</th></tr><tr><td>略</td><td>略</td><td>ポサコナゾールの併用により、CYP3A4が阻害され、これらの薬剤の血漿中濃度が上昇すると予測される。</td></tr><tr><td>パロパロテン（ソホノス） [2.1 参照]</td><td>略</td><td></td></tr><tr><td>←追記</td><td></td><td></td></tr><tr><td>略</td><td>略</td><td>略</td></tr></table>	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	略	略	ポサコナゾールの併用により、CYP3A4が阻害され、これらの薬剤の血漿中濃度が上昇すると予測される。	パロパロテン（ソホノス） [2.1 参照]	略		←追記			略	略	略
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																													
略（変更なし）	略（変更なし）	ポサコナゾールの併用により、CYP3A4が阻害され、これらの薬剤の血漿中濃度が上昇すると予測される。																													
パロパロテン（ソホノス） [2.1 参照]	略（変更なし）																														
<u>アナモレリン塩酸塩（エドルミズ）</u> [2.1 参照]	<u>アナモレリン塩酸塩の作用を増強させるおそれがある。</u>																														
略（変更なし）	略（変更なし）	略（変更なし）																													
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子																													
略	略	ポサコナゾールの併用により、CYP3A4が阻害され、これらの薬剤の血漿中濃度が上昇すると予測される。																													
パロパロテン（ソホノス） [2.1 参照]	略																														
←追記																															
略	略	略																													

（ 部：通知、 部：自主改訂）

《改訂理由》

2. 禁忌、10.1 併用禁忌

アナモレリン塩酸塩の電子添文との整合性を図り追記しました。

『アナモレリン塩酸塩』との併用により、アナモレリンの血漿中濃度が上昇すると予測されることから、アナモレリン塩酸塩の作用を増強させるおそれがあります。

製品情報お問い合わせ先

MSD 株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12
ホームページ <https://www.msd.co.jp/>

MSD カスタマーサポートセンター
医療関係者の方：フリーダイヤル 0120-024-961
＜受付時間＞9:00～17:30（土日祝日・当社休日を除く）

2026年10月
改訂連絡番号：26-18